

鴨島町のあゆみ

I

明治22年～昭和28年

1889年

1953年

戦前の鴨島は藍栽培や養蚕・製糸業で栄え、いつも活気にぎわいに満ちていました。

四季折々の風物が楽しめる「江川遊園地」には、開通したばかりの鉄道で遠くからも遊山客が来園。

ほのぼのと何もかもが癒がしい、そんな古き良き時代も、戦争勃発で終わりを迎えます。

1889年 (明治22年)

・市町村制により、鴨島村(鴨島、喜来、上下島)、牛島村(牛島、麻植塚、上浦)、森山村(山崎、内原、中島、森藤)、西尾村(飯地、西麻植)となり、13村が4カ村となる。知恵島は柿原と合併し、阿波郡柿島村となる。(10月)

1892年 (明治25年)

・鴨島町に初めての製糸工場「達磨製糸」が興る。

1894年 (明治27年)

・日清戦争勃発(7月)本町からも応召兵

1897年 (明治30年)

・この年の鴨島町の人口、鴨島村3,173人、牛島村4,686人、森山村4,041人、西尾村5,210人 合計17,110人
・この頃が本町藍栽培最盛期(〜35年まで)

1899年 (明治32年)

・鴨島一徳高駅開、川真田徳三郎等により徳島鉄道(私有鉄道)2月開通。8月に川島まで、西麻植駅の開業は10月となる。翌年8月、山川町船戸(現在の川田駅西)まで開通
・吉野川大洪水、牛島堤防決壊(8月)

1902年 (明治35年)

・この頃、インド藍より低廉なドイツの人造藍(ドイツインディゴ)に阿波藍が大きな打撃を受け衰退、養蚕へ切り替える農家が増える。

1904年 (明治37年)

・日露戦争始まる。(〜38年)

1907年 (明治40年)

・麻名用水通水開始(5月)
・佐渡製糸工場設立(6月)

1908年 (明治41年)

・鴨島村が鴨島町となる。(7月20日)

1910年 (明治43年)

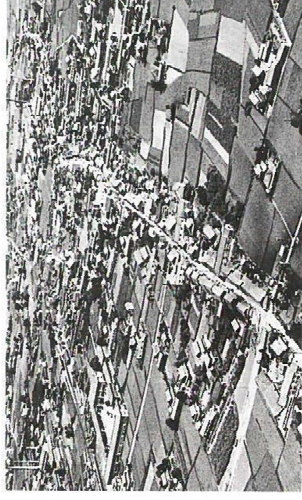
・筒井製糸株式会社設立(6月)
・この頃、多くの小規模製糸工場ができる。
・西麻植に常設芝居小屋「朝日座」ができる。大正13年に閉館

1911年 (明治44年)

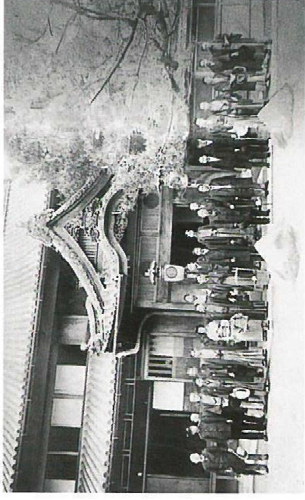
・吉野川改修工事(堤防)着工(9月)、昭和2年完成
・上下島出身の喜劇俳優、曾我廼家五九郎、東京へ出て浅草公園を中心に、昭和初期まで活躍、一世を風靡する。

1913年 (大正2年)

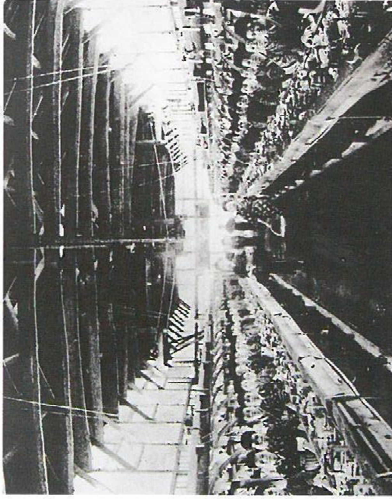
・吉野川改修工事のため、善入寺島から鴨島町内への移転始まる。



鴨島町は製糸業で栄盛。昭和29年牛島、森山・西尾、続いて東山・柿島の一部も併せて合併した(写真は鴨島町の中心街)(写真提供:徳島新聞社)



明治43年5月、鴨島町の川真田徳太郎氏(藍商)の籠。川真田家は豪邸で奥下一の庭園をもち、玄関は神殿風。右から8人目川真田徳太郎氏(写真提供:徳島新聞社)



昭和15年には筒井製糸を筆頭に14の製糸工場があった。女工さんら2,600人を数えた(写真は明治末ごろ)(写真提供:徳島新聞社)



三味線の宇生ハル工師匠は門下生を引き連れて町内を奉祝、つれ弾きした(大正5年)(写真提供:徳島新聞社)

1914年 (大正3年)

- ・阿波殖業銀行(現・阿波銀行)西本町に鴨島支店開設
- ・この頃、銀座通りに「文化座」ができ本町の娯楽の殿堂となる。昭和12年から、本町最初の映画常設館となるが、昭和38年に廃業

1915年 (大正4年)

- ・石原六郎、飯尾に興郷文庫創設
- ・鴨島郵便局で電話交換事務開始

1916年 (大正5年)

- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町3,814人、牛島村4,295人、森山村3,864人、西尾村5,708人、合計17,681人
- ・普入寺島全戸(506戸)立ち退き

1918年 (大正7年)

- ・鴨島水力発電鴨島出張所施設、鴨島町に電灯が点る。

1919年 (大正8年)

- ・徳島原蛋種製造所、鴨島町に庁舎完成(徳島市前川から移転)

1921年 (大正10年)

- ・鴨島郵便局で電信事務開始
- ・この頃から昭和5年頃までが、本町製糸業の最盛期

1922年 (大正11年)

- ・片倉製糸紡績株式会社、佐渡製糸を買収し鴨島製糸所として操業開始

- ・徳島原蛋種製造所、徳島県蛋業試験場と改称(11月)

1923年 (大正12年)

- ・阿波郡八幡町粟島の一部、西尾村に編入(4月)
- ・泉智等大僧正、真言宗総本山金剛峰寺の歴主となる。(10月)

1925年 (大正14)

- ・徳島県立麻植中学校(現・川島高等学校)開校
- ・鴨島の菊人形展が筒井製糸所前で始まる。

1927年 (昭和2年)

- ・「菊遊庭」ができ(現・協同病院東側)、菊人形展が盛大になる。

1928年 (昭和3年)

- ・工藤勝郎、江山遊園地起工(昭和6年、営業開始)

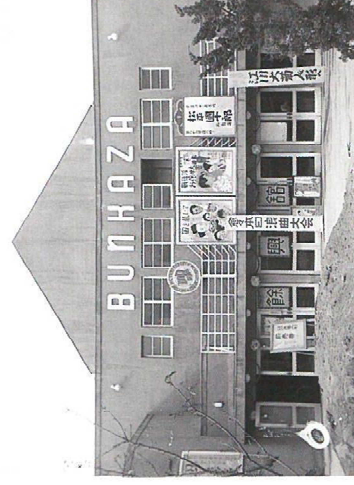
1930年 (昭和5年)

- ・この頃、閉鎖する製糸工場が多くなる。

1932年 (昭和7年)

- ・鴨島公園内に、泉智等大僧正の銅像、松村善蔵により建立

KAMAJIMA



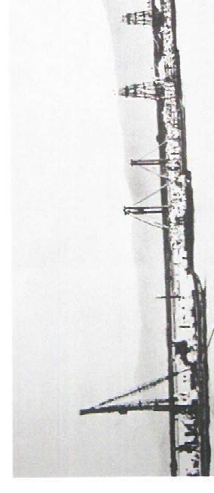
娯楽の殿堂となった「文化座」(写真は昭和35年頃)



家内安全を祈り、女、子供も参加して楽しい夜を過ごす信心講は大正末ごろ、娯楽のつかない農村では得らぬ楽しみ行事だった(写真提供:徳島新聞社)



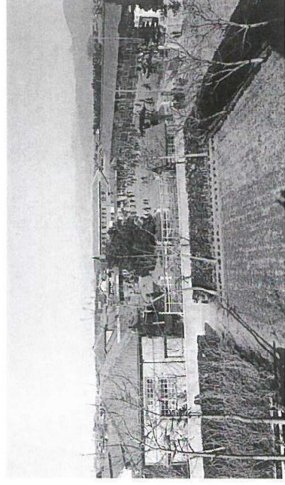
昭和12年、阿波中央派の職業出がめあまいるところ。町内の婦人は豊島旅館などに集まって糸織を民謡踊りに興じた(写真提供:徳島新聞社)



昭和12年、阿波中央派の糸織の架設作業が行われた。しかし、突貫工事のため1週間後の台風で流出した(写真提供:徳島新聞社)

1933年（昭和8年）

- ・鴨島公園内に、県下初の町民プール完成
- ・徳島県農業試験場に隣接して、徳島県蘭検定所設置（10月）



明治8年10月、鴨島町鴨島に鴨島小学校開校
同44年3月、鴨島尋常高等小学校となる

昭和22年、鴨島小学校に（写真は昭和6年の同校）（写真提供：徳島新聞社）

1934年（昭和9年）

- ・麻植塚駅（無人駅）開設
- ・小松島～川島にガソリンカー走る。
- ・牛島出身の藤井真信、岡内内閣の大蔵大臣に就任（7月）
- ・室戸台風来襲（9月21日）

1935年（昭和10年）

- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町6,146人、牛島村4,083人、森山村3,338人、西尾村4,866人、合計18,433人



慰問袋は兵士の心をいやし、また女性からは手紙にはこざりて喜んだ。
慰問袋の講習を終えた昭和8年当時の町内婦人会員（写真提供：徳島新聞社）

1936年（昭和11年）

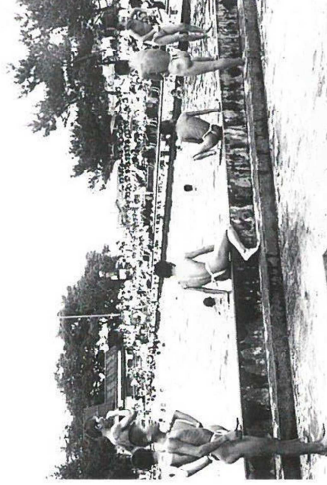
- ・作詩家野口雨晴来町、江川遊園地、鴨島公園等を視察、鴨島小唄を
作詩（2月）後、坂本歌都子が作曲

1937年（昭和12年）

- ・日支事変（日中戦争）起こる。徳島歩兵四十三連隊上海へ出動（鴨
島町からも出征兵士縦々応召）

1938年（昭和13年）

- ・鴨島公園に隣接し、鴨島体操場を建設（現・鴨島一中グラウンド）
・森山の山路にて旧象化石発掘



昭和8年、町民プール開き。多くの町民が駆けつけた

1939年（昭和14年）

- ・戦争で負傷した軍人のために、国立徳島療養所を開設（5月）

1940年（昭和15年）

- ・国営鴨島職業紹介所（現・ハローワーク）、秋葉神社前に開設

1941年（昭和16年）

- ・牛島出身の岡田勢一、沼城中学校（現・城北高等学校）を創立
- ・第二次世界大戦（太平洋戦争）勃発
- ・小学校を国民学校と改称、各小学校の校名が変わる。
- ・菊人形一時中止

1942年（昭和17年）

- ・切幡参りの客を乗せた「栗島の渡し」沈没、死者多数（3月）
- ・食塩、みそ・しょうゆの配給制開始まる。
- ・戦争のため、梵鐘、銅像、橋の欄干、日用品等の金属製品回収、鴨島
公園の泉智等大僧正の銅像も供出
- ・戦争のため、鴨島菊人形の向こう7年間の休止が決定
- ・国営鴨島職業紹介所、鴨島国民職業指導所として本郷へ新築移転



江川下流、水の確を利用していた農家のたたずまい、水車を備えて家の中で精米
をすることができた（写真は昭和3年頃）（写真提供：徳島新聞社）

1943年（昭和18年）

- ・筒井製糸鴨島工場、航空機部品製作工場となる。（終戦まで）
- ・酒・たばこも配給制となる。

1944年（昭和19年）

- ・大阪の国民学校から児童259人、戦争のため本町に疎開
- ・各家庭、学校、工場、公共施設に防空壕を設置、空襲に備える。
- ・この頃より、敵の爆撃機（B29）たびたび本町上空通過

1945年（昭和20年）

- ・徳島市空襲を受け破壊、被災者本町にも多く入る。（7月4日）
- ・第二次世界大戦（太平洋戦争）終結
- ・徳島師範学校（現、鳴教大）戦災にあい、本町の筒井製糸工場と江川遊園地で疎開授業（10月～22年9月）
- ・徳島県鴨島保健所、旧鴨島公民館の建物を借りて開所（10月）
- ・国立徳島療養所、厚生省へ移管（12月）

1946年（昭和21年）

- ・戦後の窮作りはじまる。
- ・岡田勢一、戦後初の総選挙当選（4月）
- ・知島島境に徳島県立鴨島職業訓練所（テクノスクール）設置（10月）
- ・西尾村立西麻植幼稚園設立（10月）
- ・南海道地震、本町でも家屋倒壊（12月）

1947年（昭和22年）

- ・鴨島町大火災、鎮座通りから東へ145戸焼失、被災者650人（3月）
- ・農地解放実施（3月、7月、10月、12月）
- ・国民学校を小学校と改称、6・3制の義務教育となる（4月）
- ・牛島、森山、鴨島、西尾の各新制中学校が発足（4月）
- ・鴨島国民職業指導所、鴨島公共職業安定所と改称（4月）
- ・西尾村立飯尾敷地幼稚園設立（4月）
- ・徳島県農業会麻植協同病院、現在地に開業（5月）
- ・第1回鴨島町花火大会開催（8月）
- ・鴨島公園および周辺地、松村善蔵の寄贈により復活（12月）
- ・この年の鴨島町の人口、鴨島町8,540人、牛島村5,529人、森山村4,419人、西尾村7,025人、合計25,513人

1948年（昭和23年）

- ・岡田勢一、芦田内閣の運輸大臣に就任（3月）
- ・鴨島町公安委員会の下に鴨島町警察署誕生、1951年廃止、県警に編入、川島警察署鴨島町警察官派出所となる。（現在の交番）
- ・各町村に農業協同組合設立

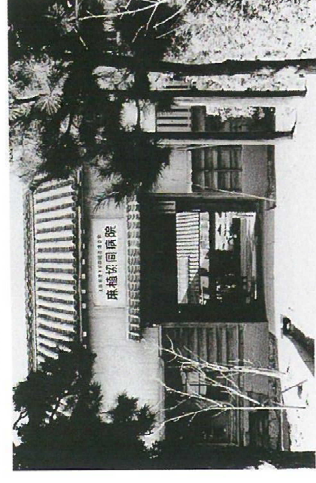
KAMIJIMA



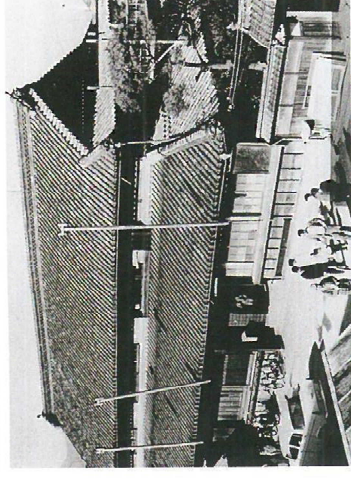
太平洋戦争中の昭和18年、鴨島町牛島には軍刀製作所があり、刀匠が懸命に軍刀づくりに動んでいた。そのもようを軍人たちが熱心に見学（写真提供：徳島新聞社）



昭和22年3月25日午後4時すぎ、国鉄・鴨島駅前銀座通りから出火して、元町、東本町の繁華街を焼きつくした（写真提供：徳島新聞社）



開院当時（昭和22年）の麻植協同病院正面入口（写真提供：麻植協同病院）



開院当時（昭和22年）の麻植協同病院（写真提供：麻植協同病院）

1949年 (昭和24年)

- ・牛島村立上浦幼稚園設立(4月)
- ・牛島村立牛島幼稚園設立(4月)
- ・菊人形センターとして、喜来に「有楽座」が誕生(9月)
- ・戦時中止の菊人形が復活
- ・森山村立森山幼稚園設立(10月)



昭和25年、天皇陛下四国巡幸。3月28日鴨島町の体育場にて天皇陛下奉迎式

1950年 (昭和25年)

- ・天皇陛下四国巡幸、鴨島町体育場にて陛下奉迎式(3月)
- ・旧森山公民館が設置される。

1951年 (昭和26年)

- ・徳島県鴨島保健所、鴨島甲13(大北)に新館完成のため移転(7月)
- ・財団法人麻植商工会議所が設立される。(西本町)
- ・旧鴨島公民館が設置される。



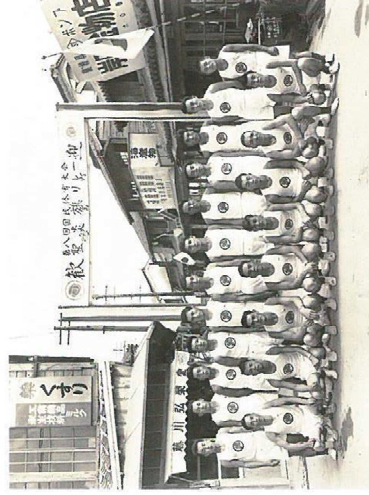
鴨島体育場は約4万人の奉迎者で埋め尽くされた

1952年 (昭和27年)

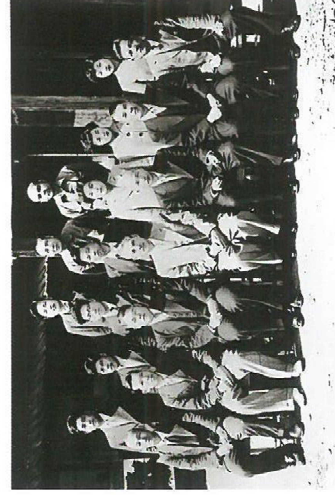
- ・麻名家草保健會在所、牛島駅近くに関設(3月)
- ・鴨島中学校、西尾中学校合併し、組合立麻植第一中学校となる。(4月)
- ・鴨島幼稚園設立(10月)
- ・鴨島町教育委員選挙、教育委員会発足

1953年 (昭和28年)

- ・牛島中学校、森山中学校合併し、組合立麻植第二中学校となる(4月)。10月に校名変更、麻植中学校となる。
- ・阿波中央橋開通(5月)
- ・組合立中央火葬場、柿原村知感島に設立(11月)



昭和28年、第8回国民体育大会、聖炎旗リレー



昭和29年9月30日、西尾村麻植村式の記念写真

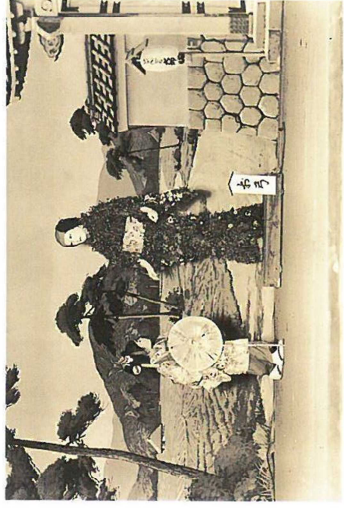


昭和30年頃の有楽座。正面入り口。廊下には
俵狂言「榎門五三郎」の南柳喜三郎の立役者
（総興為左）と喜三郎の右衛門喜三郎の立役者
が観客をお出迎。

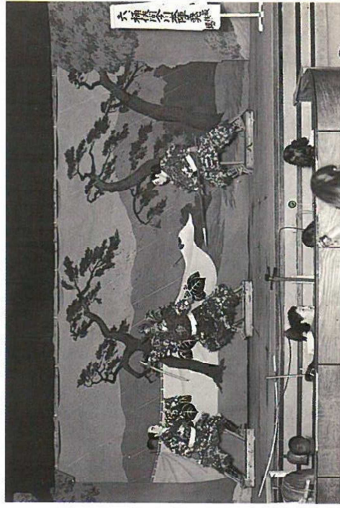
KAMOJIMA

懐かしの菊人形

戦前の「菊遊座」に戦後の「有楽座」。古き良き時代の菊人形を語るには小屋の存在が欠かせません。現在の菊人形は下ラマや芝居のワンシーンを美しく菊で飾った人形で表現しますが、昔の菊人形による「段返し」と呼ばれるお芝居の見物。菊花仕立ての装束をまとう人形の足下に台車を配し、上手へ下手へと動かすことで何幕もの筋立てを見せたいというから驚きです。題材は歌舞伎の人気演目など、当時の人々にとっては馴染みの話ばかり。中には菊人形のお弓と子役のお鶴が演じる「傾城阿波の鳴門」などのマンガ、その年の出来事などを人形師の華麗な技で展示のみの菊人形は「見流し」と呼ばれ、こちらも有名芝居の一場面はもちろん、子どもたちにも人気のあった「ポパイ」などの再現。その出来映えは、遠く具外から集まった愛好家をも唖らせる素晴らしさだと伝えられています。



段返し「傾城阿波の鳴門」(昭和30年頃) 子役と菊人形の珍しい競演



段返し「桶狭間今川本陣」(昭和30年頃) 殺陣のシーンも台車の動きで表現



見流し「豊水子ご成婚」(昭和34年) 時事ニュースを題材にした菊人形も



菊の女王選賞会(昭和30年代後半)



見流し「牛丸」(昭和30年代前半) まるで本物の舞台のような迫力



場面の下絵(昭和30年代前半)

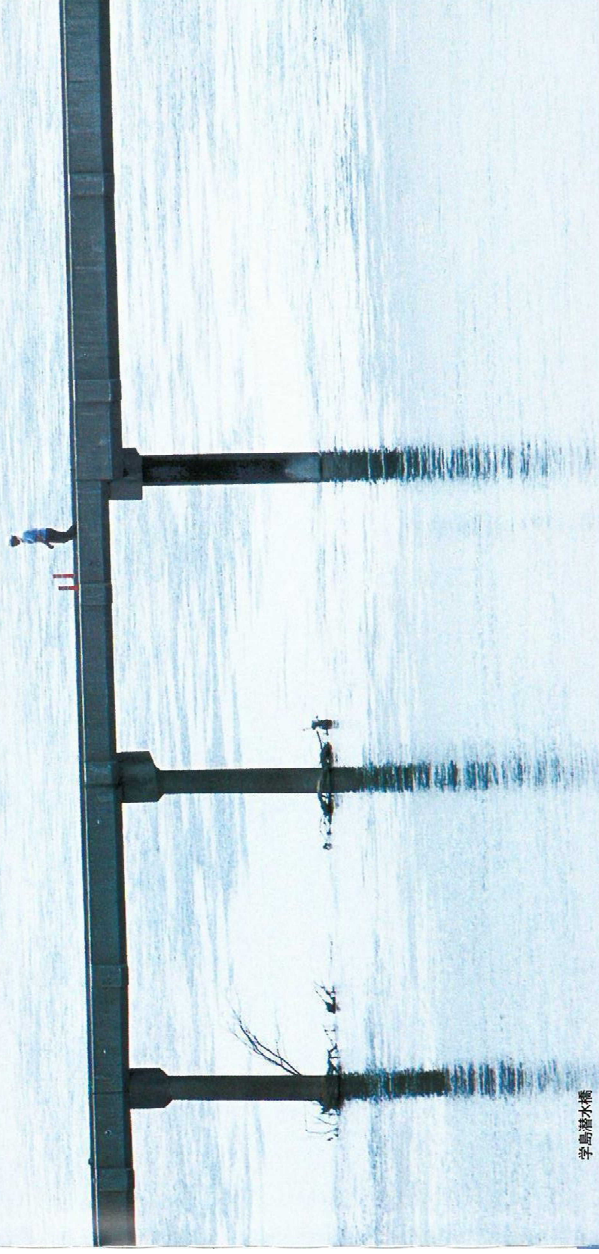


上の下絵をもとにした段返し菊人形(有楽座の舞台)

昭和30年頃の菊人形の姿を伝える、貴重な資料のひとつに「下絵」があります。細やかな筆致でメインとなる人形をはじめ、背景まででいねいに描き込まれており、それ自体が作品といっても過言ではない仕上がりが。当時の人々がいかにかに菊人形に芸術的情熱を傾けていたかが感じられます。絵の題材は、いかにも菊人形らしい古典芝居「勧進帳」(上)のほか、西洋風の街並みが斬新な「怪傑ゾロ」など多種多様。老若男女が魅了されたものも当然とわずける芸の広さがうかがえます。

《特集》 川と人の物語

穏やかな表情を見せたかと思えば、時に恐ろしい自然の牙をむく吉野川。
川島町の人々は、川とともに生き、町の歴史を築いてきました。
そして、そこには、たくさんのお話がありました。



宇島港水橋

吉野川とともに 歩んだ川島町

日 本三大河川の一つであり「四国巨川」とも称される吉野川。その豊富な水は、流域に暮らすおよそ二百五十万人の人々の暮らしを支えています。

吉野川の中流に位置する川島町も、川の恵みを享受している町の一つです。四国山地から生まれた大小五十の清流は、桑村川や宇島川を経て吉野川に注ぎます。これらの水辺は四季折々にその表情を変え、美しい景観を見せてくれます。川は人々の生活を支えるだけでなく、心のよりどころであり、ふるさとの風景となっているのです。

しかし、川島町は山と川にはさまれた水の町。平地は海抜二十メートル前後の吉野川の沖積層からなっています。このよき場所は、川が土砂を運び堆積してできたため、表層は肥沃な壤土ですが、下部は深い砂礫層となっていることが少なくありません。また、洪水がおきると絶えず吉野川の氾濫に見舞われます。しかし、この地域は豊かな生活舞台であり、住宅地としてはもちろん、阿波藍や養蚕の桑の生産地でもありました。

古来から幾多の水の洗礼を受けてきた川島町ですが、その地理的・自然的環境を生かし、政治と交通の要衝として、吉野川とともに今日の町を築いてきたのです。

川島町50周年記念誌 5P 平成16年8月 川島町発行

人も物も集まった往時の川島浜

現 在のように陸上交通が発達する以前は、吉野川は阿波の東西に伸びる大動脈で、人と物が往来する交通幹線でした。

川島浜は、吉野川の中間に位置し、川の流れが緩やかで水深も深いため、舟が接岸しやすい最良港でした。また、ここから下流には立ち寄るのに便利な浜はなく、川島浜は吉野川下流域の物資の集散地となり、毎日十五、六隻の舟が泊まっていたと言われています。そのため、現在の岩の鼻一帯に飲食店や旅館が軒を連ね、あたかも街道宿場の観を呈し、明治四十年ごろに最盛を極めました。

また、善人寺島に渡るには、渡し舟が唯一の交通機関でした。三ツ島見島・桑科・森堂・川島には渡し場が設けられ、農夫や行商人、職人や学生など、いろいろな人が渡し舟を利用していました。

しかし、時代は進み、汽車が通じ、道路も改良されて自動車が行き来できるようになると、しだいに舟運は衰え、学島や川島に潜水橋が架けられた昭和三十五年前後には、舟の姿ほしだいに見られなくなってきました。渡し舟は、吉野川を上下する舟は、水辺の里・川島の懐かしい風物として、人々の記憶の中にとどまっています。



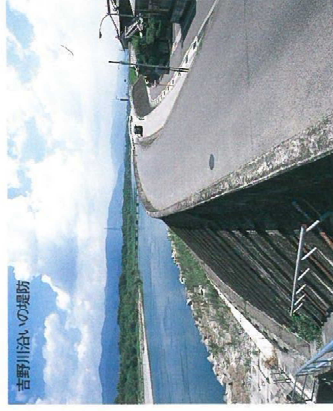
川と人々の長い闘い

吉 野川の左岸は、阿讃山脈を音にした扇状地で地形が高い一方、右岸の平地は洪水の被害に遭いやすい環境でした。また、川島前は吉野川の屈曲点という洪水を受けやすい地点に位置しています。さらに、善人寺島をはさんで二分されていた吉野川ですが、北側を流れる善人寺川が土砂堆積のために小さくなってその水量が扇状に移り、南側の吉野川が本流化して流れが激しくなったため、川島前の洪水被害は増幅にもふくれ去りました。

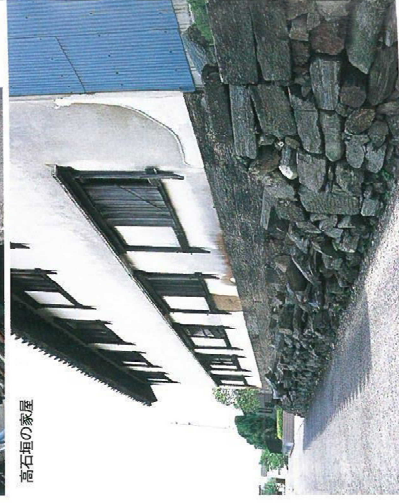
中世には、阿波の守護・細川氏が、現在の山田町山崎から川島町学にかけて堤防を築いたと伝えられ、また近世ごろには、住民の手によって地域を守る堤防が築かれました。しかし、これらの堤

防は部分的で高さも低く、根本的な洪水対策にはなりません。また、浸水の被害を防ぐために作られた高石垣の家屋は、今日でも町内の至る所に残り、かつての水跡を物語るしています。

このように、流域住民はさまざまな工夫を凝らして対策を講じてきましたが、大がかりな河川改修は民間の手には負えず、長い年月が経過してしまいました。明治二十年、政府はようやく莫大な費用を投じて吉野川の改修工事に着手しました。しかし、翌年に大水害がおこり、洪水被害を受けたのは改修工事が原因という誤解のもとに猛反対を受け、明治二十二年には工事が中止されてしまいました。結局、本格的な改修工事は大正期に入ってからになります。



吉野川旧川の埋防



高石垣の家屋

川島町 50年の風跡

吉野川改修工事と善入寺島



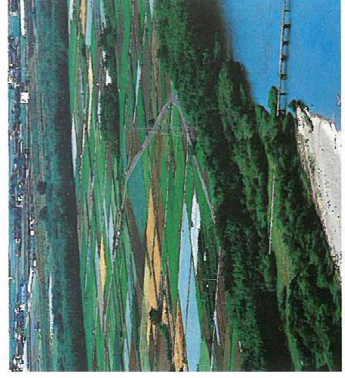
時は中止された吉野川改修工事ですが、流域住民の陳情や懇願の努力が実り、再び着工されることになりました。この工事の中で大きな問題となったのが善入寺島の遊水地帯化です。

善入寺島は、吉野川とその支流の善入寺川との間にできた面積四百八十八ヘクタールの中洲地域で、およそ五百戸、三千余人が暮らしていました。

明治四十年に発表された工事計画には、善入寺島を河川敷として遊水地帯化し、吉野川の急流を緩和するための機能を持たせ、それによって堤防の負担を軽

くするということが含まれていたのです。この計画が発表されてからというもの、島民の間でさまざまな議論が occurred しました。憂着深い土地を離れることに多くの人々が躊躇しましたが、吉野川改修工事という大事業目的の前には、恐はなければならない犠牲でした。結局、全島水没、全島民移住という結論に至り、大正四年の強制退去命令によって、善入寺島は無人島と化しました。

改修工事は明治四十四年に着工し、十五年の歳月を要して昭和二年に完成しました。



現在の善入寺島
改修工事後も、善入寺島では川島町や市堤町の農家によって毎年スイカや水根などが生産され、県外にも多く出荷されています。



善入寺島移転の碑
大正10年、川島町環山に建立されました。善入寺島の沿革と改修工事によって移転を余儀なくされたいざさつ、移転をした人々のうちこの碑を建立した人々の氏名が刻まれています。

川島津水橋

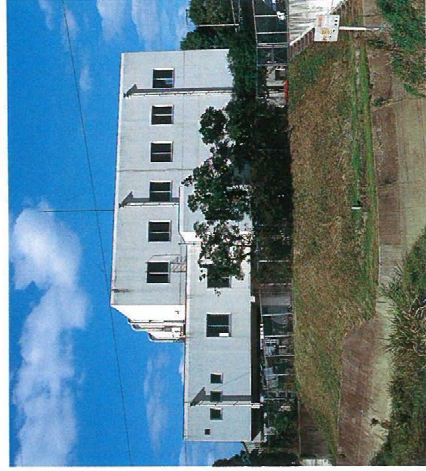


川島町50周年記念誌 7P 平成16年8月 川島町発行

水禍を克服した町と人々

昭和元年に吉野川改修工事が完成し、沿岸町村は洪水被害からまぬがれるようになりましたが、長閑が経けば桑村川・学島川がふれて大被害を受けました。そんな中、内水排除が新たな問題として浮かび上がってきたのです。

昭和三十六年の第二室戸台風は超大型で、風雨が強い上に長時間におよびました。この時行われた水害調査をもとに排水工事計画が作られ、昭和三十九年に川島排水機場、昭和四十二年に学島排水機場が完成しました。しかし、この排水施設を生かすためには、導水路である桑村川と学島川の整備が新たな課題となりました。これらの河川は、現在に至



排水機場

川島、学島の両排水機場は、排水機2台を設置した、ポンプ排水を中心とする施設です。学島排水機場には昭和53年に新たに新たに排水機1台が増設されました。

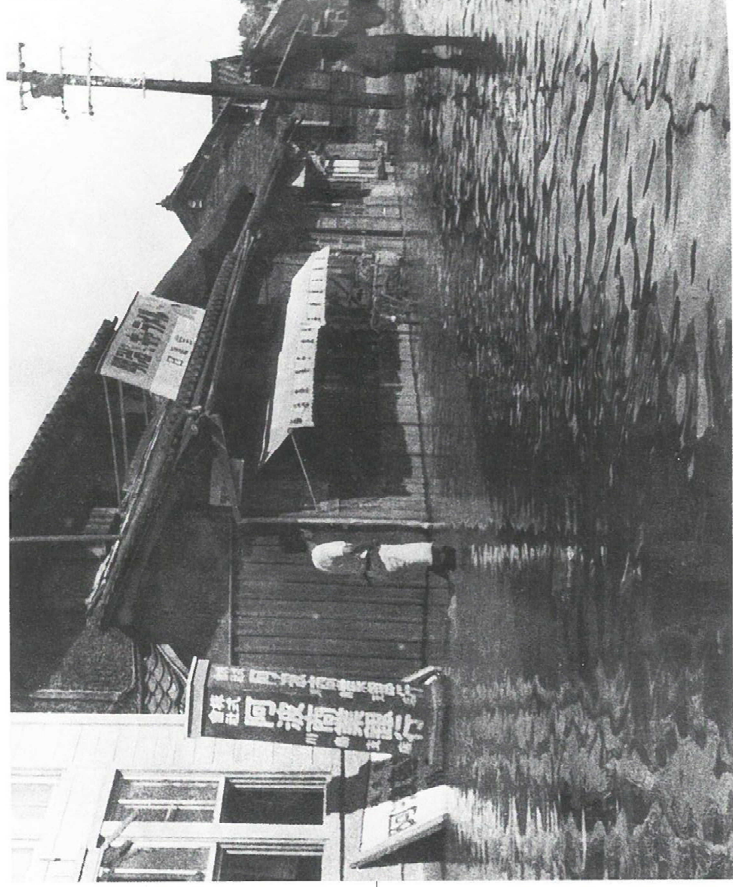
台風被害の様子

川島、学島の両排水機場は、排水機2台を設置した、ポンプ排水を中心とする施設です。学島排水機場には昭和53年に新たに新たに排水機1台が増設されました。



るまでさまざまな改修工事が続けられています。

水は生活に必要不可欠でありながら、その反面、大きな被害をもたらすこともあります。川島町の人々は吉野川の恩恵を受けるとともに、水禍に悩まされ続けてきました。昭和四十七年、川島排水機場に、治水の記念碑が立てられました。そこには、今までの水害状況とそれに対処した川島町民の苦勞が刻まれています。堤防や排水機場が整備された現在は、以前ほどの洪水被害を受けることはありませんが、水の偉大さ、恐ろしさを忘れてはならないという先人から子々孫々への警鐘となっています。



ふる伝 説る紀さ

「昔々、川島のあるところだ…」

伝説の里・川島町には
長い語り継がれたたくさんの物語があります。

一 狸伝説

下女の辻の狸・七化けおしん



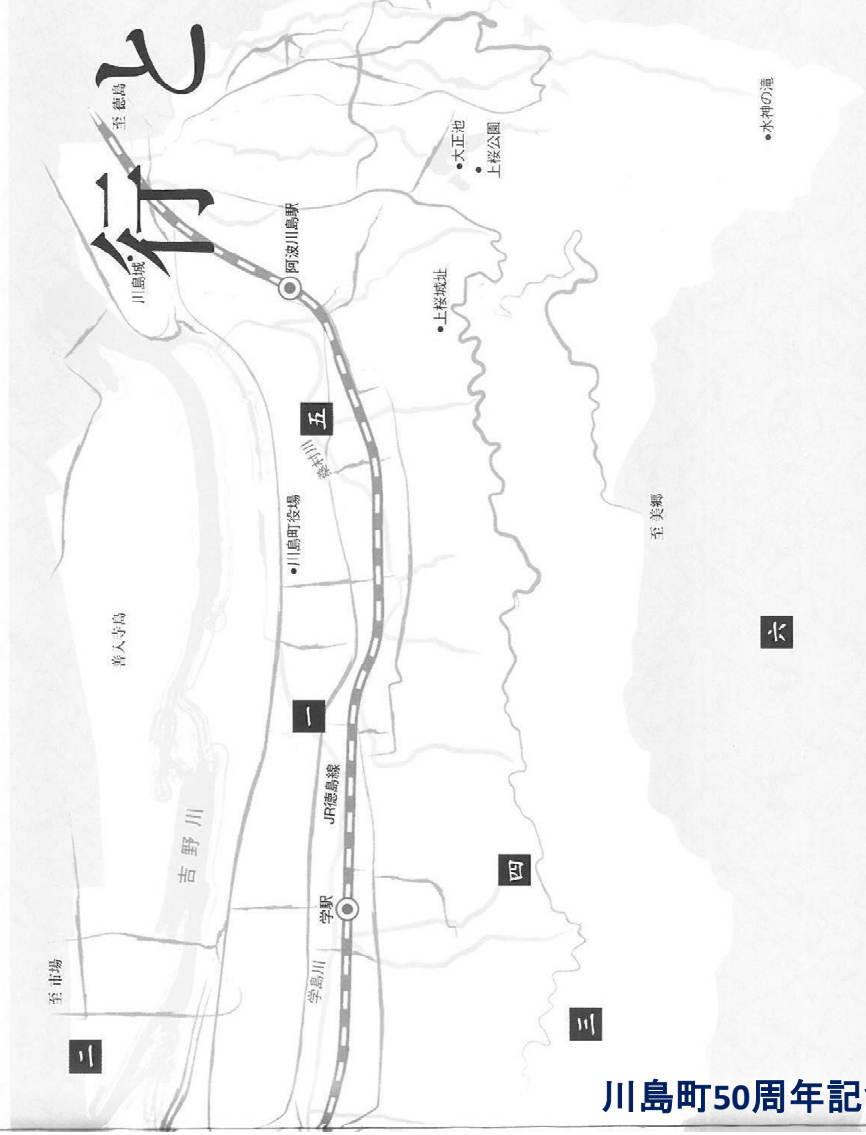
ある年の春、徳島から帰るアコ舞わしが「下女の辻」で一服しているとき、藪の中で「七化けおしん」と呼ばれる女狸を見つけた。化けて出てきたおしんにむかい「それでは人間は化かせんぞ」と言っておしんは木の裏にかくれ、右に左に人形を出した。おしん狸は驚いて、その早

麥わりの法を教えてほしいと頼んだが「タタでは教えられん」と言う。するとどこで下面したのかおしん狸は銭を持ってきたところが「テコ舞わしは銭を取り上げるや」「この泥棒舞女、どこから盗んできたんなら」と怒鳴りつけた。びびくりしたおしん狸は藪の中へとんで逃げた。

一年後、このテコ舞わしはまた下女の辻で一服していたが、去年のことを思い出し「厄除き舞用」と立ち上るや、急に大雨が降り出した。アツという間にあたり一面の大水。『助けてくれ』ともかいていたが、気がつくころには、おしん狸は出ていない。自分だけテコ舞わしの中に胸まですっかりバタバタやっていたが、

※字コ舞わし：人形使い

あなたに伝えたい 川島保存版



川島町50周年記念誌 35P 平成16年8月 川島町発行

入道伝説

入道須賀の高入道

善人寺島の西のほし三ツ島の住吉神社の北のあたりは昔はさびしいところで、西条養美への渡り場があったが、高入道が出るというので人々に恐れられていた。魚がよく釣れるという噂の噂、ある人が夢中になつて釣りをしていてとふりむくと、雲つくり高入道が目玉をむいてこちらをにらみつけている。びつくり仰天竿もえるものもほつたらかして、逃げ帰つて寝込んでしまつたという。

高入道は渡し場的小屋に隠かしていることもあり、吉野川をまたいでいることもあるという。気まな人が「巨魁した」となるとスーッと消えてしまふ。いつのころからか、このあたりを入道須賀と呼ぶようになったそう。



二

巨岩伝説

ゴヤの窪の巨石



薬師寺の上方にある長戸峠から西に約三百メートルのところ、「ゴヤの窪」という十ヘクタールほどの平地があり、石垣を積みかけたような跡が見られる。

ゴヤの窪とは「高野の窪」のことであり、弘法大師が一夜のうちに大寺を建てようと吉野川から大石を投げ上げた。しかし、天邪鬼が邪魔をして夜中ににわたりを鳴かしたので、大師は夜明けがきたと思い、一夜の建立をあきらめ、積石はそのままに残されたという。

四

大蛇伝説

森池の大蛇

二ツ森の森池は昔は数ヘクタールの大きさで、昔々と水をなみな底の知らない深い池であった。いつのころか、付近の養蚕の娘が池のほとりで美男に会い、人目を忍ぶ仲となつた。盗淵を重ねるとらに娘は身もつたが、その男はどのたれかわからない。そこで、男の着物の裾に針をさし糸をつけておいた。翌朝糸をたどつていくと、なんと糸は森池の中に引きまわっているではないか。修験者に頼み、五月五日の節句によろるとよもぎを煮じて飲むと、ならいに何はらも蛇の子が下りたといふ話もある。



至池田

五

名前の由来

桑村



桑村地区は町の中心部で、川島町中央商店街や町役場などがある。この地区は、むかしから養蚕が盛んに行われ、桑の木が多かつたことから桑村という地名になつたと言われている。

もともと町内では、細々ながら養蚕の原料となる桑の木が育てられていたが、明治時代後半に安いインド藍や西洋の化学染料の輸入普及により養蚕業が衰え、それに代わつて養蚕業からかんになつたそう。

六

名前の由来

麻植【まき】

麻植郡一帯は古来から大和朝廷に仕える忌部氏が土地を開き、阿北文化の中心となつていた。

大和朝廷における忌部氏の職務は神事を執行することで、この忌部氏の阿波における部曲(私有民)は、本織や麻布を作ることを本職とし、大徳院(天皇即位の時に行う神事)においてこれらを納めていた。

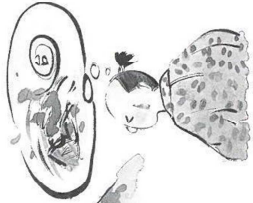
そのため、麻植郡にはむかしから麻がたくましく植えられ、このことが麻植の由来ではないかと言われている。



川島町 50年の地誌

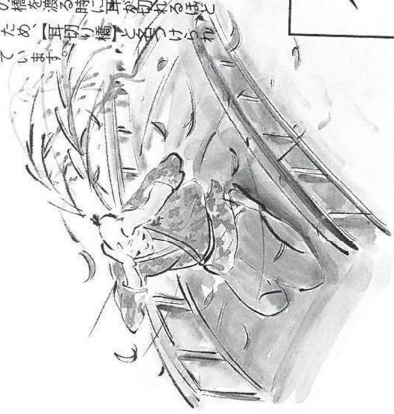
鶯ヶ巣の出別れ雲

西から出た雲が、出にまきまられて南からの風の影響が少ないことを「鶯ヶ巣の出別れ雲」と言い、全国や瀬戸内を接近している知らせと云われています。



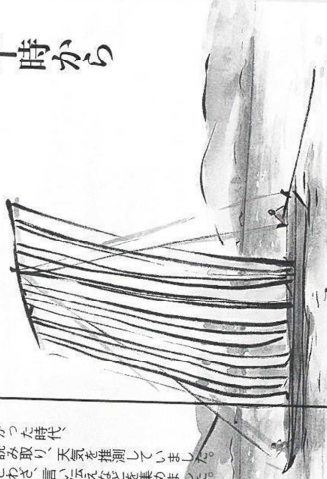
耳切り橋

城山にはおかしな橋がありました。提防ができるまでは冬に西よりの風が吹きつけて、この橋を渡る時に耳が切れるほど冷なかつたため「耳切り橋」と云われていたと云われています。



風とお医者は十時から

昼の海風と夜の陸風が交代する時、風がとたえる朝風と夕風がありました。海風や陸風を利用して巨野川を下する帆船の船頭仲間では「風とお医者は十時から」と言われていたそうです。



池田・白地のすき焼きのにおいがする

川島町に吹く風の多くは、四国山脈や巨野川に沿って吹き、特に冬は西よりの川風が強くなります。このことから冬の夕方にはなんと「池田・白地のすき焼きのにおいがする」と言ったそうです。



天気予報の今むかし

昔のようにこの季節もなかな時代、人々は雲や風などの気化を自ら感覚取り、天気を予測していました。川島町の気象を天気に関係することなど、いろいろなことを集めました。

高越の腰布

今朝、高越山のふもとの霧が西へ動けば雨が降り、上へ上つて丸くなり東に飛べば晴れになる、という言い伝えがありました。この霧を腰布に昇立て「高越の腰布」と言ったそうです。



ほかにも【種鶴山の夕立は待つことなし】【石鎚山からの雲は雷鳴強い】【日開谷の夕立で待ちぼうけ】などがあります。科学的根拠があるわけではありませんが、長年に渡る庶民の経験から生まれたものであり、当たる確率は高いかもしれません。

郷土愛から 生まれた絆 姉妹町 仁木町

COLUMN
Tatekiri no Niki

～仁木町と仁木竹吉～

仁木竹吉 [にきたけきち]

天保5(1834)年藩入寺島の一部である学島村(現島)に仁木源左衛門の二男として生まれました。41歳の時に北海道移住の志を立ててからは、村民の移住のために奔走し、北海道仁木村でその生涯を閉じました。

徳島県立文書館提供



1834～1915

北海道仁木町

改修工事が行われる以前の吉野川流域は、幾たびも水禍に見舞われ、農作物は育たず、人々は生活に苦しんでいました。善人寺島に生まれた仁木竹吉は、わが身をもってこの貧窮を体験していたため、人々を救うには北海道に新天地を求めざるを得ないと決意し、その生涯を村民の北海道移住のために捧げたのです。

明治8年、四十二歳の時に北海道移住の志を立てた竹吉は、上京して黒田清隆開拓使に会い、その志を述べました。そして熱意が認められ、黒田開拓使の一行にもなつて北海道に赴きます。北海道で調査を重ねた竹吉は、後志国奈市郡の大川に沿う肥沃な原野を発見し、ここに移住する決心を固めました。そして、移住に必要なさまざまな物資の交付を懇願し、四年後に開拓使から許可されました。

明治十二年十二月、最初の入植者として百十七戸、四百八十人が北海道にやってきました。春を待つて、開拓使庁の技師らとともに道路や畑の整備を行い、入植地はしだいに安定していきました。そこで、竹吉はさらに入植者を募集し、明治十六年に新たに八十戸が入植しています。しかし、農産物の暴落や入植者の利己心の芽生えなどから開拓が頓挫しそふようになりました。竹吉は再建に取り組み、三井物産との提携を実現しました。三井物産から田を

担保として貸付を受け、代わりに三井物産が仁木村の農産物を二手に引き受け販売することになったのです。この結果、入植者の生活もしだいに安定していききました。このような村の盛衰を見守りつつ、竹吉は大正四年、仁木村において八十二歳の生涯を閉じました。

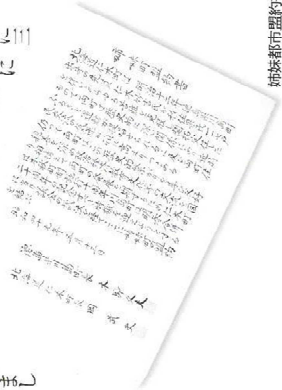
そして昭和四十九年、川島町は仁木町と姉妹町の調印を交わしました。それ以来現在に至るまで、さまざまな交流が活発に行われています。昭和五十四年には開基百年記念事業の一環として、川島町訪問研修団が仁木町を訪れ、交流の輪を広げました。ゆかりの地交流事業としては、毎年夏休みに仁木小学校の子どもたちが川島町を訪れ、友好を深めています。また、毎年仁木町で行われる町民運動会では阿波踊りが披露され、今や仁木町の風物詩としてすっかり定着しています。



仁木町との交流

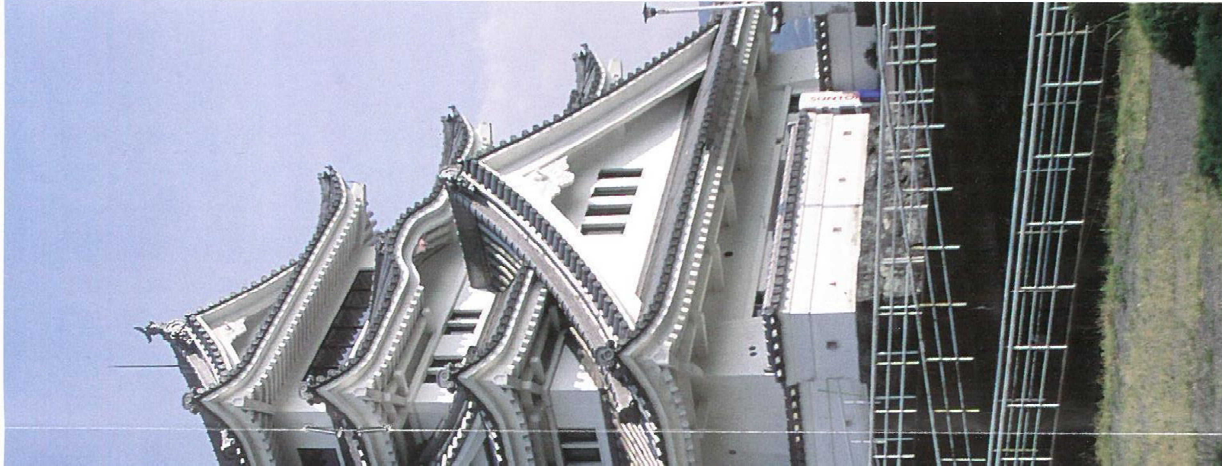


川島町 50年の軌跡

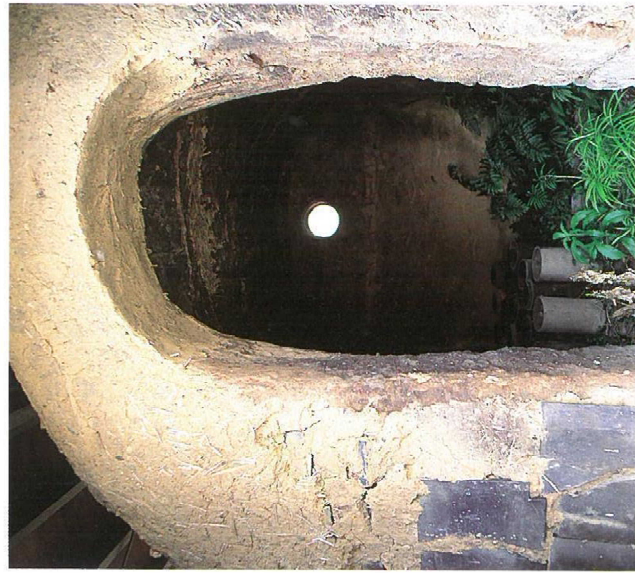


姉妹町協約書

心を支える誇りある歴史

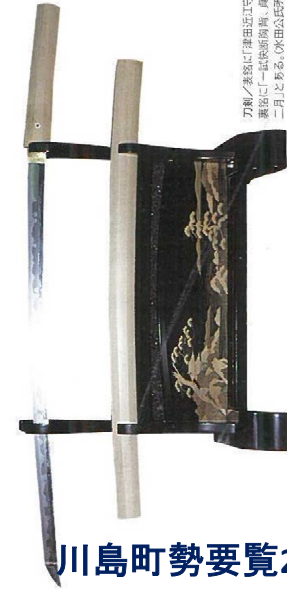


川島伊賀守形足利氏(町指定史跡)二ツ森公園の西側にあり、大森を前石に
城址時代の字城址、工藤伊賀守の跡と「自然なる石をわが鳥と冠の墨く…」
などの文字が刻川島町に記されている。



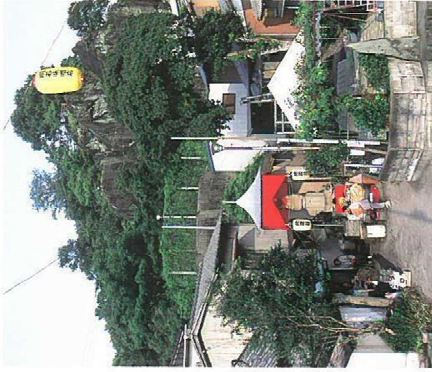
川島東町蔵(川島町指定史跡)の跡(1830年代より埋まったといわれている。
互角の形跡の川島町指定史跡(166)の跡(川島町指定史跡)により埋められた。
「二ツ森」と呼ばれ、江戸時代から、江戸時代には、川島町には、川島町の歴史を
四圍一の歴史を語っていた。

川島町は
古城跡が三カ所もある城下町であり
昔より学問の土地柄として
歩んできたまちです。
歴史がある、文化があるということは
まちの何よりの財産であり
ここに住む人たちの
心のよりどころとなっています。

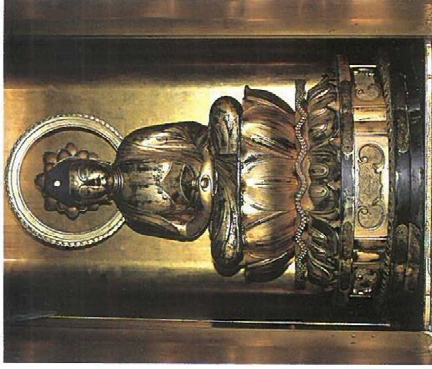


刀剣/孝徳(海田江守助)蔵、
鎌田(一弘)蔵、川島町指定史跡、川島町
二月に於ける(川島町指定史跡)

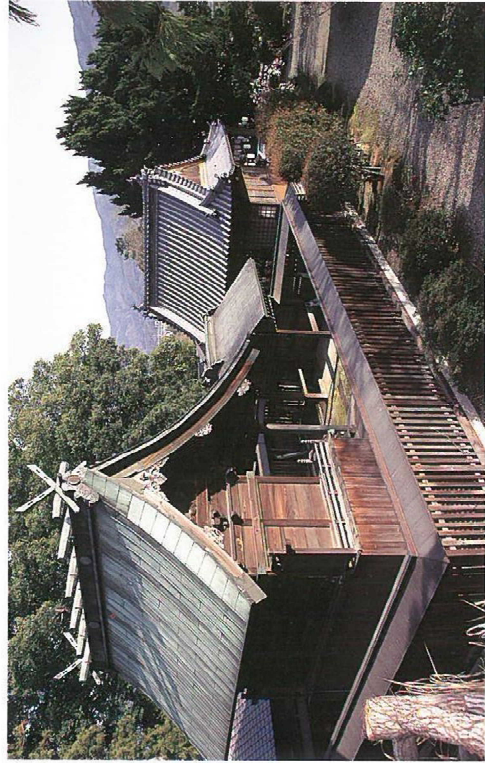
川島町勢要覧2000 18P 平成12年3月 川島町発行



川島城跡、元亀3年(1572)の上杉朝敵落城後、三好家臣田川兵衛之進は、この地に城を築き川島城と称した(川島町内の家神楽田別荘蔵・天正3年(1575)入廻した徳川家臣は林能徳(遠藤)にこの城を守らせた、いわゆる阿波丸城の一つである。



源朝山城へ、像高51.5cmの造り物木造り、内えくり、頭部に耳飾を添え、透活で仕上げている。法界足目(ほうかしくしういん)を額が、蓮華を臺に置き、左足が蓮華臺(つっからさ)とした細身の座蓮を臺である。南北朝時代、または室町時代初期の作といわれる。(奥原忠業)



川島神社(吉野川)の改修で社地移転を承継した浮屠人(僧侶)を中心として、当時の神社台地の機運に伴い、旧川島町内の家神楽田別荘蔵・天日誓翁・菅原通景の4社を合祀して、大正5年(1916)10月20日、新たに築山の地に伍木な社域2,326坪を合祀して建立、川は神社と称して建立、川は神社と称した新しい神社である。

時の肖像

川島城ノ型在(川島城は昭和56年に建立されたもの。竣工額192,000千円を要し、築城時に備えし、真鍮・青銅・和瓦・葺材地石室、真鍮所帯・多門・廊下には空天殿子ニスコート・多目的広場、遊歩道、子供遊園地が整備され、レクリエーション地帯に整えようとしている。

古代から中世になるまでの川島町の歴史はよく分かっていませんが、多くの国衆が割拠していたようです。しかし、足利尊氏の重臣細川和氏が阿波に来るや、いち早くその整備された強力な武力でもって、強引に荘園侵略を押し進めていきました。しかし、こうして阿波国を支配下に納めた守護大名細川氏も、応仁の乱以後は急速にその勢力は衰え、まもなくその家臣三好氏にとって代わられました。

三好氏は、代々英才を出していましたが、三好長慶が出現するにおよんで、京畿に進出して事実上室町幕府を支配し、その勢力を京畿に伸張する壮観を実現してきました。阿波三好氏もまたこれと呼応して、三好長慶をバックアップしつつ、阿波国をその勢力下に置き、長慶の弟、三好義賢(実体)、その子、長治の二代にわたって阿波を支配しました。

三好義賢の死後は、上桜城主の篠原長房が阿波三好氏を盛り立て、多大な功績を残しましたが、長治に疎まれ、攻め滅ぼされてしまいました。

上桜城陥落後、三好家の家臣だった川島兵衛之進は、二百貫(約千石)を領し、この地に城を築き川島城と称しましたが、その川島城の命は短いものでした。篠原長房亡き後の阿波三好氏に国衆の心は離れ、やがて長治は裏切りに合い自刃し、この混乱を土佐の長曾我部に突かれ、川島兵衛之進も天正七年(一五七九)十二月、岩倉合戦において阿波の諸将、一族とともに戦死しました。

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1511年(永正8)	・森藤八幡神社棟札にこの年の銘が残っている。
1518年(永正15)	・僧定秀が一連寺(通玄寺)を開基、天正年間の兵火で焼失
1532年(享祿5)	・山路屋敷の板碑にこの年の銘が残っている。
1544年(天文13)	・鴨島常教寺、僧善正により開基、天正年間の兵火で焼失
1549年(天文18)	・藤井寺本尊木造釈迦如来座像修理(この時?、薬師如来となる)
1550年(天文19)	・山路善正寺、僧敬善により開基
1552年(天文21)	・内原城主、蓮池清助勝瑞にて死亡(阿波での戦国時代始まる)
1563年(永祿6)	・飯尾持福寺釈迦図(明の嘉靖42年の銘)
安土・桃山時代 1579年(天正7)	・脇城外の戦、鴨島壘(城主)鴨島六之進、飯尾東壘、麻植志摩守、内原壘、内原菊太夫など多くの勇将・豪族等が戦死
1582年(天正10)	・中富川の戦で、乗島壘乗島来心、中島壘片山岸右衛門など戦死「天正8~10年は盗賊の代になり申候・・・」(昔阿波物語) ・この頃、長宗我部元親との戦いで、藤井寺、玉林寺、三谷寺等、町内のほとんどの寺々が戦火に会い焼失、多くの文化財を失う。
1585年(天正13)	・蜂須賀家正、軍功により阿波の大部分を与えられ、一宮城に入る。
1587年(天正15)	・飯尾持福寺地藏十王図(明の万暦15年の銘)
1588年(天正16)	・麻植須賀村、喜来村検地帳の写しあり。(太閤検地)
1598年(慶長3)	・飯尾高ノ原の福生寺、飯尾より川田村に移り駅路寺となる。
1600年(慶長5)	・蜂須賀至鎮、阿波に封じられる。(関が原の戦いにより淡路加増、25万7千石となる)
江戸時代 1604年(慶長9)	・牛島村、麻植塚村、西麻植村、上下島村、各検地帳あり。 ・この頃、僧晴雲が飯尾に持福寺を再興する。 ・この頃、喜来杉尾神社洪水で流失、城主乗島来心の子了本が勧請 ・蜂須賀氏が入国し、麻植郡を麻植郡と改める。
1615年(元和元)	・この頃より、呉島に藍作奨励され、作付け次第に多くなる。
1622年(元和8)	・西麻植東禅寺(寛文11年、十カ寺と改称)再興、昭和46年廃寺
1624年(元和10)	・森藤村、加茂島村各新開検地帳あり。 ・この後の各地の新開検地帳、百姓夫役改め帳多数あり。
1624~44(寛永年間)	・飯尾神社創建、飯尾一族を祀った。
1657年(明暦3)	・西麻植村、喜来村、麻植塚村、東知恵島各棟付帳あり。
1661年(寛文元)	・麻植塚向麻山、山中の庚申碑にこの年の銘あり。町内庚申碑の中で最古

鴨島町歴史年表2P 平成16年9月 鴨島町発行

(3)

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
907年(延喜7)	・牛島杉尾神社、西麻植中内神社、延喜式内社となる。
927年(延長5)	・「倭名類聚抄」ができる。麻植郡に呉島(久礼之萬)郷名あり。(阿波国9郡44郷2余戸)
1148年(久安4)	・藤井寺本尊、薬師如来座像にこの年の銘記がある。本町唯一の国指定重要文化財(仏師経尋作)
1186年(文治2)	・平康頼、麻殖保司となる。 ・諏訪神社勧請と伝える(もと諏訪の原にあったが、1865年の洪水で流失、諏訪の元に鎮座した。(1923年現在地へ移転)
1187年(文治3)	・平康頼、現在地の近くに玉林寺を創建と伝わる。
1188年(文治4)	・平康頼、地頭野三成綱と争い、麻殖保は西方と東方に二分され、康頼は東方のみを支配する。 ・平康頼、熊野神社勧請
鎌倉時代 1221年(承久3)	・承久の変に平清基(康頼の子)公家方につき、麻殖保司を失う。麻殖保は幕府権限下に置かれ、麻殖庄となる。 ・小笠原長経、阿波の守護代となり、麻殖庄の地頭を兼ねる。
1230年(寛喜2)	・小笠原貫道、牛島に浄土真宗「森の坊」創建(現・西覚寺)(阿波で最初に創建された真宗の寺院)
1289年(正応2)	・こうべ寺のことが、一遍聖人絵詞に記事として残っている。 ・この頃、すでに前記の寺の他に、三谷寺、仙光寺、牛島宝王院等が創建されていたと思われる。
1316年(正和5)	・飯尾報恩寺板碑に、正和5年(1316)、元亨元年(1321)及び、応永4年(1397)の銘あり。
1332年(正慶元)	・上浦本行寺門前板碑の紀年(4基のうち1基は町内最大のもの)
南北朝時代 1336年(建武3)	・麻殖庄西方の地頭、飯尾氏一族が、足利尊氏の軍に加わり、神戸の湊川の戦いに参戦の記録あり。
1346~69(正平年間)	・僧善智、山路に仙光寺を再興(仙光寺文書にあり)
1383年(永徳3)	・牛島西覚寺の板碑にこの年の銘あり。
室町時代 1422年(応永29)	・飯尾彦左衛門常房京都で生まれる。(3月21日)京都で没(1485) 飯尾報恩寺に飯尾一族の墓といわれるものあり。
1438年(永享10)	・麻植塚西門寺、僧唯信が創建、天正年間の兵火で焼失
1467年(文正2)	・牛島杉尾神社の麻苧桶にこの年の銘あり。
1472年(文明4)	・犬神退治文書に飯尾常連の名が残っている。
1491年(延徳3)	・このころの仙光寺文書が、多く残っている。(延徳3年、永正2年、永正11年、天文5年、永祿12年、の文書あり)

(2)

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事項
1673~81(延宝年間)	・僧光寂宗本により、玉林寺現在地に中興開山
1682年(天和2)	・阿波国旱害(かんがい)、また、水害(天和2~3年へと続く)
1688年(貞享3)	・西麻植八幡神社にこの年の棟札あり。
1697年(元禄10)	・寺谷と森藤境の山神の碑にこの年の銘あり。
1698年(元禄11)	・牛島岸ノ下基地の六地藏尊の紀年、六地藏尊では町内最古
1728年(享保13)	・中島地藏菩薩にこの年の銘あり。
1745年(延享2)	・洪水のため、板野郡西条村と麻植郡牛ノ島村で境争いの裁判があり、麻植・板野・名西三郡の郡境石が建てられる。
1746年(延享3)	・森藤村八幡神社にこの年に書かれた縁起あり。
1751年(寛延4)	・内原村西張の荒神社址の石灯籠にこの年の銘あり。
1756年(宝暦6)	・連年凶作、五社宮事件、百姓一揆挫折、首謀者5人磔の刑 ・牛島村稲垣監物、藩主の許可を得ず「監物堤」(けんもつづみ)を築造責任をとり、その場で切腹 ・この頃「麻植郡内原村藍作日本一」とある。(阿波藩民政資料)
1766年(明和3)	・麻植塚に剣士佐藤忠右衛門あり、貫心流剣道指南を代々続ける。
1782年(天明2)	・国中八幡神社、山路国一八幡より分神勧請して向麻山東麓に奉祀 ・天明2~5年に続く連年飢饉(ききん) ・この頃、鴨島町で最初の漢方医、筒井玄医療に尽くす。
1783年(天明3)	・西麻植八幡神社、多田氏の名が刻まれている太鼓橋あり。 ・この頃、康頼神社再興
1785年(天明5)	・飯尾の弥五郎、凶作を直訴して処刑され、義人として葬られる。
1792年(寛政4)	・吉野川大洪水、被害甚大、秋祭中止 ・牛島西崎(麻植塚駅南)光明真言供養碑の紀年、町内で最古
1802年(享和2)	・西麻植、与兵衛父子、天明から続く飢饉、洪水の時、農民を救いこの年2月、藩主より褒められ帯刀を許される。
1809年(文化6)	・粟島にある廻路道標石にこの年の銘あり。
1815年(文化12)	・「阿波志」ができる。鴨島町内の記述多数あり。
1816年(文化13)	・樋山地石鎚神社奥ノ院行場の不動明王石像の紀年、町内の同種で最古(3月) ・樋山地八幡神社棟札の紀年(11月)
1817年(文化14)	・樋山地石鎚神社奥ノ院行場の鎖の紀年
1823年(文政6)	・山路国一八幡宮の大鳥居にこの年の銘あり。
1829年(文政12)	・藩主から褒美をもらった飯尾村長寿者勝女、104歳で没 ・西麻植八幡神社、大鳥居にこの年の銘あり。

時代及び西暦(年号)	事項
1830年(文政13)	・林居陵、飯尾で私塾を開き多くの子弟を教育
1832年(天保3)	・筒井竹香、鴨島で塾を開き子弟教授、以降、私塾が多く開かれる。
1834年(天保5)	・西麻植八幡神社、陶製狛犬にこの年の銘あり。
1837年(天保8)	・この頃、吉野川大洪水あいつぐ、1843年には特に七夕水という。
1846年(弘化3)	・この年の洪水で、牛島堤防5カ所切れ、大被害を受ける。
1856年(安政3)	・この頃、鴨島村の林儀助、毎年信州より蚕種を購入し郡内へ配分
明治時代 1868年(明治元)	・阿波国を南、北、西、に分ける。本町は西民政所の掛所管
1869年(明治2)	・河野与平、西麻植の居宅に涵養学校創設、後各村に学校ができる。
1870年(明治3)	・庚午事変(稲田騒動)、飯尾小原の滝直太郎、日本最後の切腹
1871年(明治4)	・徳島県を名東県と改称、県内を区画して従来の郡を大区とした。麻植郡は第五大区、鴨島町は第1、2小区となる。 ・飯尾村に麻植郡東郷学校ができ、麻植郡東部の教育の中核となる。
1872年(明治5)	・藍売り場株、解放の布達により藍が自由に売買される。 ・学制の発布(8月) ・川真田市兵衛、川島町城山より牛島村に至る江川の大堤防を企画、同6年より第1期工事を始め、旧11カ村を守る。 ・武岡桃斉が山路善導校を創設。現森山小学校の前身。
1874年(明治7)	・上浦小学校創立、7~8年にかけて各村の小学校が創立される。
1875年(明治8)	・丸亀連隊編成される。本町氏は丸亀連隊に入隊
1876年(明治9)	・名東県を廃し、阿波を高知県へ、淡路を兵庫県に合併 ・曾我廻家五九郎(本名武智智平)誕生、(4月13日)
1880年(明治13)	・高知県より分離、徳島県となる。
1886年(明治19)	・鴨島郵便取扱所開設(本町、川真田喜八郎氏宅)
1887年(明治20)	・阿波国共同汽船株式会社創設(社長、川真田市兵衛) ・この頃、安価なインド藍(Indigo)の輸入量が増えてくる。
1889年(明治22)	・市町村制により、鴨島村(鴨島、喜来、上下島)、牛島村(牛島、麻植塚、上浦)、森山村(山路、内原、中島、森藤)、西尾村(飯尾、敷地、西麻植)となり、13村が4カ村となる。知恵島は柿原と合併し、阿波郡柿島村となる。(10月)
1890年(明治23)	・川真田徳三郎第1回衆議院議員総選挙当選(7月)
1892年(明治25)	・鴨島町に初めての製糸工場「達磨製糸」が起こる。 ・川真田徳三郎第2回臨時総選挙当選(2月)
1894年(明治27)	・日清戦争勃発(7月)本町からも応召兵、戦傷病死者9名

歴史年表

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1921年(大正10)	・鴨島郵便局で電信事務が始まる。 ・この頃から昭和5年頃までが、本町製糸業の最盛期 ・敷地の敷島神社の大鳥居の紀年。この鳥居は町内で最大
1922年(大正11)	・片倉工業株式会社、佐渡製糸を買収し鴨島製糸所として操業開始 ・徳島県原蚕種製造所、徳島県蚕業試験場と改称(11月) ・麻植郡教育会により「麻植郡誌」ができる。
1923年(大正12)	・阿波郡八幡町粟島の一部、西尾村に編入 ・泉智等大僧正、真言宗総本山金剛峰寺の座主となる。(10月)
1925年(大正14)	・徳島県立麻植中学校(現・川島高等学校)開校 ・鴨島の菊人形展が筒井製糸所前で始まる。
1926年(大正15)	・鴨島菊友会が結成される。
昭和時代 1927年(昭和2)	・「菊遊座」ができ(現・協同病院東側)、菊人形展が盛大になる。
1928年(昭和3)	・工藤鷹助、江川遊園地起工(昭和6年、営業開始) ・天皇陛下に菊花を献上する。 ・知恵島の「源太の渡し」に木造潜水橋(記念吉野川中央橋)がかかるとがその後たびたび流出する
1930年(昭和5)	・この頃、製糸工場の閉鎖するもの多くなる。 ・全国農民組合西尾支部発会・西尾小作争議本格化(11月)
1932年(昭和7)	・鴨島公園内に、泉智等大僧正の銅像、松村善蔵氏により建立
1933年(昭和8)	・鴨島公園内に、県下初の町民プール完成(50mプールと小プール) ・徳島県蚕業試験場に隣接して、徳島県繭検定所設置(10月)
1934年(昭和9)	・麻植塚駅(無人駅)開設、(小松島〜川島にガソリンカー走る) ・牛島出身の藤井真信、岡田内閣の大蔵大臣に就任(7月) ・室戸台風来襲、暴風雨、洪水の被害甚大(9月21日)
1935年(昭和10)	・この年の鴨島町の人口、鴨島町 6,146人 牛島村 4,083人 森山村 3,338人 西尾村 4,866人 合計 18,433人
1936年(昭和11)	・作詩家野口雨情来町、江川遊園地、鴨島公園等を視察、鴨島小唄を作詩(2月)後、坂本歌都子が曲をつける。 ・粟島渡船場に木造の八幡橋完成
1937年(昭和12)	・日支事変起こる。徳島歩兵四十三連隊上海へ出動(鴨島町からも出征兵士続々応召)
1938年(昭和13)	・鴨島公園に隣接し、鴨島体錬場を建設(現・鴨島一中グラウンド) ・森山の山路にて旧象化石発掘
1939年(昭和14)	・戦争で負傷した軍人のために、徳島療養所を創設(5月)

鴨島町歴史年表6P 平成16年9月 鴨島町発行

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1897年(明治30)	・この年の鴨島町の人口、鴨島村 3,173人、牛島村 4,686人、森山村 4,041人、西尾村 5,210人 合計 17,110人 ・この頃が本町藍栽培最盛期(〜35年まで)
1899年(明治32)	・鴨島—徳島駅間、川真田徳三郎等により徳島鉄道(私有鉄道)2月に開通、8月に川島まで、西麻植駅の開業は10月となる。翌年8月、山川町船戸(現・川田駅西)まで開通 ・吉野川大洪水、牛島堤防破壊による被害甚大(8月29日)
1902年(明治35)	・この頃、インド藍より低廉なドイツの人造藍(ドイツインディゴ)に阿波藍が大きな打撃を受け衰退、養蚕へ切り換える農家が増える。
1904年(明治37)	・日露戦争始まる(〜38年)、本町の戦傷病死者66名
1907年(明治40)	・麻名用水通水開始(5月1日) ・佐渡製糸工場設立(6月) ・鴨島村が鴨島町となる。(7月20日)
1910年(明治43)	・筒井製糸株式会社設立(6月) この頃、多くの小規模製糸工場ができる。 ・西麻植に常設芝居小屋「朝日座」ができる。大正13年に閉館 ・上下島出身の喜劇俳優、曾我廻家五九郎、東京へ出て浅草公園を中心に、昭和初期まで活躍、一世を風靡する。
1911年(明治44)	・藤井寺本尊薬師如来座像、木造釈迦如来座像として、国指定重要文化財となる。(8月) ・吉野川改修工事(堤防)着工(9月)、昭和2年竣工
大正時代 1913年(大正2)	・鴨島公園保勝会結成 ・吉野川改修工事のため、善入寺島より鴨島町内への移転始まる。
1914年(大正3)	・阿波商業銀行(現・阿波銀行)西本町に鴨島支店開設 ・鹿児島島の桜島大噴火、本町一円に灰が降る。 ・この頃、銀座通りに「文化座」ができ本町の娯楽の殿堂となる。昭和12年より、本町最初の映画常設館となるが、36年に廃業
1915年(大正4)	・石原六郎、飯尾に呉郷文庫創設 ・鴨島郵便局で電話交換事務開始
1916年(大正5)	・この年の鴨島町の人口、鴨島町 3,814人、牛島村 4,295人、森山村 3,864人、西尾村 5,708人、合計 17,681人 ・善入寺島全戸(506戸、3,000人)立退き
1917年(大正6)	・久保忠男により「麻植郡郷土史」ができる。
1918年(大正7)	・徳島水力発電鴨島出張所開設、鴨島町に電灯が灯る。
1919年(大正8)	・徳島県原蚕種製造所、鴨島町に庁舎竣工(徳島市前川より移転)

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1948年(昭和23)	<ul style="list-style-type: none"> 岡田勢一、芦田内閣の運輸大臣に就任(3月) 鴨島町公安委員会の下に鴨島町警察署誕生、1951年廃止、県警に編入川島警察署鴨島町警察官派出所となる。(現・交番) 各町村に農業協同組合設立
1949年(昭和24)	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育法制定、旧各町村公民館の設置が始まる。旧森山公民館(1950年)、旧鴨島公民館(1951年)が設置される。 牛島村立上浦幼稚園設立(4月) 牛島村立牛島幼稚園設立(4月) 喜来に「有楽座」が、菊人形センターとして誕生(9月) 戦時中、中止の菊人形復活する。 森山村立森山幼稚園設立(10月)
1950年(昭和25)	<ul style="list-style-type: none"> 天皇陛下四国巡幸、鴨島町体鍛場(一中グラウンド)にて陛下奉迎式 ボーイスカウト徳島県連盟麻植第1団結成
1951年(昭和26)	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県鴨島保健所、鴨島甲13(大北)に新館竣工移転(7月) 財団法人麻植商工会議所が設立される。(西本町)
1952年(昭和27)	<ul style="list-style-type: none"> 麻名家畜保健衛生所、牛島駅近くに開設(3月) 鴨島中学校、西尾中学校合併し、組合立麻植第一中学校となる。(4月) 鴨島幼稚園設立(10月) 鴨島町教育委員選挙、教育委員会発足
1953年(昭和28)	<ul style="list-style-type: none"> 牛島中学校、森山中学校合併し、組合立麻植第二中学校となる。(4月)10月に校名変更、麻植中学校となる。 国道西条徳島線(路線番号192号)が2級国道に指定される。(5月) 阿波中央橋開通(5月) 河野正雄氏所蔵の短刀(1400年ころの作)、本町で最初の県指定文化財(工芸品)となる。(7月) 組合立中央火葬場、柿原村知恵島に設立(11月) 菊師島居慶昭氏この年より来る。
1954年(昭和29)	<ul style="list-style-type: none"> 板野郡一条町先須賀・四ツ屋地区を牛島村に編入(3月) 主要地方道、鴨島～三本松線の鴨島新橋竣工(3月) 鴨島町、牛島村、森山村、西尾村の4町村合併、新鴨島町が発足、暫定的事務所を鴨島小学校青雲閣に置く。各旧役場を支所とする。(3月) 鴨島町公益質屋開設(4月) 鴨島町婦人会連合会発足 阿部永一氏初代町長に就任(5月) 鴨島公民館を鴨島甲43に設置、(5月) 江川水温異常現象、徳島県天然記念物に指定(8月) 中学校の校名を鴨島第一中学校、鴨島東中学校と改称(11月)
1955年(昭和30)	<ul style="list-style-type: none"> 東山村榎山地地区を鴨島町に編入合併(1月1日) 麻植商工会議所組織変更により、鴨島商工会議所となる。(3月) 町議会議員定数30人に変更(3月) 旧鴨島町役場の庁舎を大北に移築、鴨島町公民館とする。(4月) 河野進氏2代目町長に就任(10月) 国勢調査、鴨島町の人口23,843人(10月)

鴨島町歴史年表8P 平成16年9月 鴨島町発行

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1940年(昭和15)	<ul style="list-style-type: none"> 国営鴨島職業紹介所(現・ハローワーク)、秋葉神社前に開設 曾我廻家五九郎没(7月7日)
1941年(昭和16)	<ul style="list-style-type: none"> 牛島出身の岡田勢一、渭城中学校(現・城北高等学校)を創立 第二次世界大戦(太平洋戦争)勃発、本町から多くの兵士出征 小学校を国民学校と改称、各小学校の校名が変わる。 菊人形一時中止 八幡橋流出する(9月)
1942年(昭和17)	<ul style="list-style-type: none"> 切幡参りの客を乗せた「粟島の渡し船」沈没、死者多数(3月) 食塩、みそ・しょうゆの配給統制、自由には買えなくなる。 戦争のため、梵鐘、銅像、橋の欄干、日用品等の金属製品回収、鴨島公園の泉智等大僧正の銅像も供出する。 戦争のため、鴨島菊人形を向こう7年間の休止が決まる。 国営鴨島職業紹介所、鴨島国民職業指導所として本郷へ新築移転
1943年(昭和18)	<ul style="list-style-type: none"> 筒井製糸鴨島工場、航空機部品製作工場となる。(終戦まで) 酒・たばこも配給制となる。
1944年(昭和19)	<ul style="list-style-type: none"> 大阪の国民学校から児童259名、戦争のため本町に疎開 各家庭、学校、工場、公共施設に防空壕を設置、空襲に備える。 この頃より、敵の爆撃機(B29)たびたび本町上空通過
1945年(昭和20)	<ul style="list-style-type: none"> 徳島市空襲を受け壊滅、被災者本町にも多く入る。(7月4日) 第二次世界大戦(太平洋戦争)終結、本町の戦傷病死者996名 徳島師範学校(現・鳴教大)戦災にあい、本町の筒井製糸工場と江川遊園地で疎開授業をする。(10月～22年9月) 徳島県鴨島保健所、旧鴨島公民館の建物を借りて開所(10月) 国立徳島療養所、厚生省へ移管(12月)
1946年(昭和21)	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の菊作りはじまる。 岡田勢一、戦後初の総選当選(4月) 知恵島境に徳島県立鴨島職業訓練所(テクノスクール)設置(10月) 西尾村立西麻植幼稚園設立(10月) 南海大地震(12月21日)、本町でも倒壊家屋あり。
1947年(昭和22)	<ul style="list-style-type: none"> 鴨島町大火災(3月23日)、銀座通りより東へ145戸焼失 農地解放実施(3月、7月、10月、12月) 国民学校を小学校と改称、6・3制の義務教育となる。(4月) 牛島、森山、鴨島、西尾の各新制中学校が発足(4月) 鴨島国民職業指導所、鴨島公共職業安定所と改称(4月) 西尾村立飯尾敷地幼稚園設立(4月) 徳島県農業会麻植協同病院、現在地に開業(5月) 第1回鴨島町花火大会開催(8月) 県立蚕業技術員養成所設置(9月) 鴨島公園及び周辺地、松村善蔵氏の寄贈により復活(12月) この年の鴨島町の人口、鴨島町 8,540人 牛島村 5,529人 森山村 4,419人 西尾村 7,025人 合計 25,513人

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1956年(昭和31)	<ul style="list-style-type: none"> ・西麻植に麻植酪農集乳所設立(現・明治乳業) ・鴨島町社会福祉協議会が任意団体として発足(10月)
1957年(昭和32)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民分館(西尾、森山、牛島)旧役場に設置(1月) ・役場庁舎、鴨島字中郷388に新築竣工(2月)4月から使用開始 ・柿島村知恵島地区を鴨島町に編入(3月) ・鴨島町立鴨島商業高等学校創立(4月) ・徳島療養所内に飯尾敷地小、鴨島一中の障害児学級設置(10月) ・鴨島電報電話局本郷に竣工、11月に開局、四国で初めての自動即時通話が、徳島-鴨島間で開始
1958年(昭和33)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島有線放送電話共同施設開設
1959年(昭和34)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島町天寿会(老人クラブ)発会式(2月) ・飯尾敷地小学校講堂竣工(2月) ・一中体育館竣工・鴨島小学校講堂竣工(3月) ・新国道、西条徳島線のうち、「八本松~市瀬」着工(4月) ・明治乳業 阿波路工場集乳所発足(4月) ・堀江安一氏3代目(4代目)町長に就任(5月)
1960年(昭和35)	<ul style="list-style-type: none"> ・菊人形の展示会場であった有楽座焼、7棟全焼(2月) ・西麻植小学校講堂竣工(3月) ・銀座通りアーケード完成(8月) ・新国道、西条徳島線のうち、「市瀬~中島」着工(4月)、以後、新国道部分的に開通する。 ・菊人形江川遊園地で開催(10月) ・有楽座焼失により有楽園として復興
1961年(昭和36)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治乳業株式会社徳島工場設立(1月)、操業開始(6月) ・鴨島公共職業安定所、中西に新築竣工、本郷より移転(3月) ・鴨島町同和教育推進協議会発足(4月) ・鴨島郵便局、本郷に新局舎竣工(5月)、7月より開業 ・第2室戸台風により町内全域に被害(9月) ・菊人形、江川遊園地で開催(10月)
1962年(昭和37)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島町立鴨島商業高等学校、県立高校へ移管(3月1日) ・片倉製糸工場閉鎖(3月) ・国道新設のため鴨島第一保育所廃止(3月) ・町議会「交通安全都市宣言」決議(3月) ・中国四国農政局鳴門統計情報事務所鴨島支部を設置(12月)
1963年(昭和38)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島町青少年補導センターを鴨島公民館内に設置する(1月) ・鴨島東中学校体育館竣工(2月) ・三輪自動車によるゴミ収集開始(4月) ・鴨島第一保育所新築(7月) ・JR鴨島駅前時計塔完成(8月) ・川島橋完成

歴史年表

時代及び西暦(年号)	事 項
1964年(昭和39)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島町ゴミ焼却場竣工(1月)(7.5^ト／日)、昭45年(20^ト／日) ・上浦地区簡易水道完成(2月) ・鴨島町誌発刊(3月) ・児童館竣工(3月) ・西麻植会館竣工(4月) ・簡易水道工事着工、42年度竣工 ・2級国道、西条徳島線川島町境まで開通(6月) ・建設省吉野川第一出張所が喜来に設置される。(7月) ・上浦小学校プール完成(7月) ・国立療養所に筋ジストロフィー病棟開棟(8月) ・旧役場横に農事センター竣工
1965年(昭和40)	<ul style="list-style-type: none"> ・森山地区簡易水道完成(1月) ・鴨島小学校体育館完成(2月) ・河辺寺跡(史跡)壇の大クス、玉林寺のモクコク(天然記念物)県指定文化財となる。(3月) ・2級国道西条徳島線が一般国道192号となる(3月) ・国勢調査、鴨島町の人口23,138人(10月) ・鴨島町青少年補導センター設置規定ができる。(12月) ・菊人形の有楽園休業
1966年(昭和41)	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨島駅前通歩道にアーケード完成(1月) ・西麻植地区簡易水道完成(2月) ・県蚕業技術員養成所を廃し、県農業大学校蚕業分校とする(4月) ・鴨島小校舎改築着工(7月)昭和47年3月竣工(4期に分け) ・西麻植小学校プール完成(8月) ・森山小学校鉄筋校舎完成(12月) ・上浦幼稚園舎改築(12月) ・菊人形、江川遊園地で開催
1967年(昭和42)	<ul style="list-style-type: none"> ・県道「鴨島停車場線」開通(1月) ・牛島地区簡易水道完成(3月) ・広報『かもじま』創刊(4月) ・地籍調査(国土調査)開始(4月) ・川真田郁夫氏5代目(6代目)町長に就任(5月) ・麻名家畜保健衛生所、阿波支所を併合し、徳島県鴨島家畜保健衛生所と改称、麻植塚(東中学校の東)に新築移転 ・玉林寺の釈迦十六尊神象(有形絵画)、持福寺の金胎両界五瓶(有形工芸品)県指定の文化財となる。(7月7日) ・森山小学校プール完成(7月)
1968年(昭和43)	<ul style="list-style-type: none"> ・西尾村、森山村、牛島村、牛島、鴨島町養蚕農業協同組合が併合し、鴨島町養蚕農業協同組合が発足(3月) ・鴨島小学校校舎増築(3月) ・知恵島小学校校舎改築(3月) ・鴨島工業団地に長尾テキスタイル誘致(5月) ・麻植地区開拓パイロット事業着工(7月) ・阿波中央橋下流河川敷に、鴨島県民グラウンド竣工(7月) ・鴨島商業高校第50回全国高校野球選手権大会出場(8月) ・菊人形、江川遊園地開催を終了